

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100248		
法人名	有限会社おおき		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	宮崎市山崎町佐牟田1409-2		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和5年10月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当園は自宅で生活されているように、自由で時間に縛られず自分がしたい事したくない事が出来る家庭的な生活ペースで生活をされている。コロナなどの感染症が流行する前は月に1回のペースで外食など行っていたが感染症などが流行し外出が難しくなったため施設での行事を増やしている。季節の行事などを取り入れている。最近竹を使用しソーメン流しを行いとても喜ばれた。他にストレス解消の為に軽体操や歩行運動等も行っている。施設内で犬を飼っているため利用者様と遊んだりされ笑顔が絶えず職員も利用者様と話しをしたり笑ったりすることで信頼関係を築いている。緊急時も24時間対応の主治医、訪問看護、薬剤師との医療連携も充実している為、利用者様のご家族様も安心されている。今後も利用者様の健康、生活を守り安全で安心した生活を提供していく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者職員が安心して家族のように生活できる空間を目指して取り組んでいる様子が窺える。ホーム内にペットの子犬を一匹飼っており、利用者の気持ちを癒す役割を果たしており、昼間はほとんどの利用者がリビングでくつろいで過ごしている。建物の立地が利用者の避難に難点を伴うため、地域住民等の協力支援が得られるように具体的な検討が進められており、近く地域住民との合同避難訓練も計画されている。医療体制としては協力医が月2回の往診を行っており、訪問看護による健康チェックも週1回行われ、医療との連携が機能している。職員間の人間関係も良く、コミュニケーションも取れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの個性を大切にし幸せに安心できるグループホームの為に簡潔な理念を全職員が共有し実践につなげている。	理念は簡潔で解りやすく、全職員が理念を踏まえ実践につなげている。ただ、施設特性としての地域密着型サービスを意識した実践も行われていることから、その意義を理念に盛り込むことも考えられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ以前は敬老会、クリスマス会などの行事は近所の保育園園児に参加してもらったり地区の祭りには子供獅子舞や御神輿が施設内に入り利用者様と触れ合ってもらっていた。今年は地区祭りや盆踊り祭り等に参加した。	自治会に加入し、以前は地域との交流も積極的に行われていたが、コロナ禍では難しく、今年になって徐々に交流を復活させ、地域の祭り等に参加できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の自治会長、公民館館長、班長など参加していただき認知症の理解や支援方法を話し合い説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し毎月の行事や活動を報告し地域の行事予定や災害時の避難場所等を話し合っている。自治会長、公民館館長、地域包括支援センターなど参加していただいている。	今年度から対面での運営推進会議が開催され、利用者の災害時避難等について具体的な検討が行われ、住民参加での避難訓練が計画されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政等の連絡事項や書類などは全職員が目を通し情報交換、意見交換など1ヶ月に1回の定例会などで話し合いを行っている。解らない場合は行政に連絡を行い関係を綿密にしサービス向上に取り組んでいる。	市介護保険課の職員が運営推進会議に出席しており、担当者との協力関係が築かれている。事業所からも年1回以上自主的に情報提供書を市に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの研修に職員が参加しその研修情報等を定例会で報告している。その情報をもとに職員で話し合いをしている。また研修に参加した職員は研修報告書を作成し何時でも職員が観覧できるようにし身体拘束のないケアに取り組んでいる。	資料を集め独自の「身体拘束ゼロへの手引き」を作成し、職員が供覧できるようにしている。新規雇用職員への説明には活用されているが、今後は身体拘束適正化委員会等での活用が期待される。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会等に参加し学んだ事を定例会で報告し話し合い虐待防止に取り組んでいる。また廊下等に虐待情報等を掲示し見過ごされないように意識させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度など施設ケアマネージャを中心に勉強会などを行い把握に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書など利用者様やご家族様が解りやすい様に丁寧に読み上げ質問、疑問等がある場合は詳しく説明をおこない理解、納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関にご意見箱を設置している。また行政に第3者相談窓口があることも園内に提示している。サービス担当者会議時などにも管理者が参加し相談などを聞いている。	意見箱の設置があるが利用が無く、家族が集まる機会もないため、担当者会議に家族等が出席した際にできるだけ意見・要望を聞き出せるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や個別、SMSなどで話す場を設け職員の意見とコミュニケーションをはかり話しやすい環境に取り組んでいる。	職員の意見等は介護主任が取りまとめ、施設長とケアマネに伝える仕組みになっているが、施設長と職員間のコミュニケーションもとれており、職員の意見が業務負担の見直しにつながった例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度、勤務状況、を把握しその情報を上部に報告している。当施設はプライベートを充実してもらう為に希望休みや連休を取り入れ働きやすい職場環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が平等に参加できるように勤務調整を行い参加してもらう。研修に参加した職員は定例会の場で報告をして意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や紹介等で知り合った同業者と時々連絡をとり情報交換などを行っている。お互いのサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と話し合いや希望を見つけ利用者様ご家族様とよりよい関係づくりを行い安心して生活ができるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族の情報、構成、利用者の既往歴、生活歴、趣味を把握し家族がかかえている問題等を共有し信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険、医療保険に留まらず障害福祉サービスの地域支援事業、他のサービス利用も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別レクで外出や外食に行き職員と交流を深めよりよい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本来は面会などの時間を指定せず何時でも来ていただける様にしている。現在は感染症予防の為、面会等は規制している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や利用者様の知り合いの方が気軽に園に遊びや面会に来てもらえる様に職員の接遇の教育に努めている。数年前は職員と墓参りに山村の故郷に行きご家族様とお話や食事をしたりし交流に努めていた。	コロナ禍以降は以前のような交流は難しくなっており、電話での交信によって関係継続の支援を図ることが増えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様に声を掛けたり個別レクで買い物や洗濯物、掃除などをして仲間意識と信頼関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院退所などされサービス利用が終了しても必要に応じて本人や家族の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個別に担当職員を決めその職員が中心になって他職員と情報を共有しその利用者様に合ったケアが行えるように努めている。	職員間での情報共有を図りながら利用者の希望や意向の把握に努めているが、利用者が若い頃の仕事や趣味につないでいくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や利用者様の情報から生活歴を導きその方に合ったケアに努めている。またその情報を共有し職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネを中心としサービス担当者会議を開催しケアマネが作成したモニタリングを職員が観覧し利用者様に合ったケアや残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の情報の中から家族、本人の希望を聞き入れ、その人らしさに合ったケアを見つける。また安心した生活をして貰う為にもモニタリングを行いご家族様と担当者会議を開催しその人に合ったケアの共有に努めている。	モニタリングは毎月行い、担当者会議には家族等の参加を促している。利用者・家族の希望や意見をよく聞き、介護計画に反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例会などで話し合いをし良いサービスやケアに繋げて行くために職員間で検討しながら介護計画に盛り込み見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が安心して生活できる為に個別外出や外食などを行い信頼関係が円滑にできるように職員の介入を行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「福寿園」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センター、病院、警察、消防、地域住民と連携し利用者様が安心安全に生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療と24時間医療機関との連携をしている。必要に応じて訪問看護の診療もしている。他のかかりつけ病院がある場合は園の主治医と連絡をとり移行している。	利用者の殆どが協力医をかかりつけ医としており、協力医による訪問診療が毎月2回、訪問看護による健康チェックが毎週1回行われ、双方の医療連携もあり、利用者の適切な受診や看護につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護サービスがあり24時間連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を中心に専門医へ連絡を取ってもらい入院が必要な場合はご家族様に連絡し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、施設管理者、訪問看護、薬剤師、ケアマネで話し合いを行い方向性を共有しケアにあたっている。	重度化した場合の対応について入所時に家族等と話し合い、緊急時対応についての方針に同意を得ているが、協力医や訪問看護とも連携しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防隊員立ち合いで火災訓練や避難訓練を行っている。急変者に対しては医療機関との連携に取り組んでいる。AEDの設置と緊急自体訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で地区の方と話し合い安全な避難通路、場所などを把握しており避難訓練にて避難時の想定を行っている。年1回地域との全体避難訓練も開催し参加している。	利用者の避難訓練を定期的に行っているが実際場面での対応は難しく、運営推進会議に出席する地域関係者との間で地域住民の協力・応援を想定した避難訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念同様、一人ひとりの個性を大事にし誇りやプライドを損ねないケアができるように言葉かけや配慮を行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライドを損ねないように留意しながらも、家族のように親しく言葉かけや対応に心がけている、	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間に捉われず、したい事やりたい事など利用者様が自己決定して生活がおくれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務自体は決まっているが本人の自己決定を尊重し本人のペースで行う。外出や散歩など本人の健康状態を把握して希望に沿った支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の個性、自己決定を尊重しながら服装、髪型、アクセサリー等おしゃれや身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを把握したうえで利用者様に提供している。時には個別メニューも行っている。	平日は調理済みの配達料理を利用しているが、土日は職員が交替で調理を担当し、利用者の希望も聞きながら食材の購入を行っている。また、時には外食も取り入れ食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量などは記録に残している。また個別診療時などに主治医に記録を見せ指示を貰っている。また体調などを考慮してお粥やミキサー食、きざみ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が誘導し口腔ケアを行い自己にて出来る方は自分で磨いてもらい終了後は職員が確認し磨き残しがある場合は介助を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやリハパンの個別使用を減らす為に排泄チェック表に記録し排泄パターンを調べその時間にトイレ等に誘導をしている。また声掛けを行い自立に向けた支援も行う。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しながら声掛けを行い自立に向けた支援を行っている。布パンツに移行しリハビリパンツの使用が減った事例も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理などは主治医や訪問看護、職員が共有しヤクルトや乳製品などを摂取することで自然排便を行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2班に分かれており1日おきに入浴を行っている。気分や体調の状態が入浴日変更も柔軟に行っている。	浴室と脱衣室にはエアコンが据えられ温度調節がされている。利用者は1日おきに入浴があり、時には入浴剤を入れて入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて休息したり睡眠をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員が把握しており飲み忘れ等がないように薬に記載されている利用者様の名前と一緒に確認し手に渡した際飲み終えるのを確認する。服薬後、症状がでた場合は主治医と連絡を取り指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がしたい事、出来ない事を把握し本人一人ひとりに合わせた支援を行い気分転換がはかれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外食や外出、近所の子供と交流をしたり地区の行事や祭りも参加している。本人希望で買い物や散歩も支援している。	春と秋には車で遠足を実施しているが、日常的には戸外に出て散歩したり、職員の買い出しの同行を支援したりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し使える金額を所持して貰う。なくともよい金額をご家族様了承で所持される。買い物等で金銭がなくなった場合はご家族様から預かった金銭を所持してもらう。使った金額等はご家族様に連絡しその都度伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望でご家族様と電話でお話してもらう。手紙が読めない利用者様には職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調は適温に設定している。共同空間の壁等には大きなカレンダーや季節感が解るように花壇などを設けている。またゆっくりくつろげるように長ソファも完備している。	食堂兼リビングとなるホールは日当たりも良く、明るい、空調も適温に設定してあり、くつろげる空間になっている。テレビやソファが置かれ、利用者が思い思いにゆっくり過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には長ソファを完備し中庭デッキ、ベランダには季節感がある花壇等を設置し利用者様が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前本人が使用していたタンスや家具、日用品などを持ってきてもらい本人が自分の家に居るように過ごしていただけるように務めている。	居室には備品のベッド以外は私物のタンスやテレビの他、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、写真を飾ったり、仏壇を据えたりして利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活、身体機能を考え手すりの位置やトイレの位置を記するなど不安や混乱を避け安全に生活できるように工夫している。		